



# 営農NEWS



## 降雪の気象予報があります。注意してください。

2月10日から11日にかけて、県内でも降雪または降雨の気象予報が出ています。降雪になるとハウスや農作物に被害を生じる恐れがありますので、事前の対策や降雪時の対応等を行い、ハウスや農作物の被害軽減に努めてください。なお、ハウスや露地野菜、果樹などに被害が生じた場合には、その程度に応じた対策を図ってください。被害が比較的軽くても、生育への影響、病害の発生などが懸念されますので、その対策が必要となります。

### 【事前の準備】

パイプハウス等の被害を受けやすい施設については、施設内外や周辺の整理、補修、補強などを行って、被害をできるだけ回避する準備をします。特に、外張り被覆資材のたるみや破れ、屋根資材の表面に張られた防風ネットや外部遮光資材等は、雪の滑落を阻害するので、補修や撤去が必要です。また、施設内の暖房器具や燃料等を点検し、正常に稼働するよう確認します。なお、屋根等への散水により融雪を行う場合は、積雪前から行うのは有効ですが、積雪後に開始すると、水を含んだ雪の重量で倒壊する恐れが生じるため避けてください。

### 【降雪中の対応】

安全を確認しながら、速やかに雪下ろしを行います。また、暖房などで、施設内の温度を高め、雪の滑落を促します。降雪状況やハウス等の耐久状況を考慮し、場合によっては被覆資材を切断除去して、施設の倒壊を防ぐ必要もあります。なお、施設内へ侵入する場合には、倒壊等の恐れがないことを十分確認することが必要です。

### 【被害発生時の対策】

#### 1 施設野菜（イチゴ、キュウリ、トマト、ピーマン、メロン、スイカ、葉物類など）

果菜類は、開花から幼果期の耐寒性が低いため、不受精や奇形果などの障害発生や、低温遭遇での生育不良にも注意が必要です。葉菜類でも、急激な低温遭遇で生育不良や茎葉の枯死など、障害が発生する場合があります。

#### <対策>

- 1) 施設が倒壊や半壊した場合は、安全に修復作業を検討してください。
- 2) ビニールの破れやはがれで、ハウス中の作物に被害が生じた場合でも、栽培が継続可能な場合には、早急に破損個所の修復を行い、温度確保に努めます。また、施設内に雪や水が侵入した圃場は排水を行い、換気を図るなどして湿度の低下に努めてください。これら施設内の作物は根傷みなどで草勢が低下しやすくなっているため、果菜類では適正な摘果や早めの収穫で着果負担を軽減します。いずれの作物も、必要に応じて液肥の散布等による生育の回復を図り、さらに病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行ってください。
- 3) 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植え替えや再播種などを検討してください。

#### 2 露地野菜（レタス、ハクサイ、キャベツ、ネギ、ホウレンソウなど）

冬春用の栽培品種は、耐寒性が強い傾向ですが、結球期に低温遭遇すると、凍結の被害を生じる場合があります。

#### <対策>

- 1) ビニールの破れやはがれで、トンネル中の作物に被害が生じた場合でも、栽培が継続可能な場合には、早急に破損個所の修復を行います。また、作物が根傷みなどで草勢が低下しやすくなっているため、必要に応じて液肥の散布による生育の回復を図り、さらに病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行ってください。
- 2) 生育初期の作物が被害を受けた場合は、予備苗による植え替えや再播種などを検討してください。

#### 3 果樹

#### <対策>

- 1) 樹体被害の損傷に応じて、かすがいやボルト等を使っての損傷部の癒合や改植等の検討が必要になります。
- 2) 倒伏した場合は、健全な根を切らないように、出来るだけ早く引き起こし、支柱を添えて固定します。また、枝が裂けた場合は、針金やボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗っておきます。
- 3) 被害により樹勢が弱まっている場合は、必要に応じて樹勢に見合った適正な剪定や施肥による生育の回復を図り、さらに、薬害の発生に留意しながら、病害虫の発生を抑制するための薬剤散布を行ってください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040